

第19回全国高校生英語ディベート大会 in 岡山 実施要項

The 19th All Japan High School English Debate Tournament in Okayama

- 主 催 一般社団法人 全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA)
理事長 下山田 芳子 (茨城県立勝田中等教育学校 校長)
- 主 管 岡山県高等学校教育研究会英語部会
部会長 丸山 浩 (岡山県立岡山芳泉高等学校 校長)
- 特別協賛 株式会社ベネッセコーポレーション
- 年間協賛 京都外国語大学・京都外国語短期大学
- 後 援 文部科学省 在大阪・神戸米国総領事館 全国英語教育研究団体連合会
公益社団法人全国高等学校文化連盟 特定非営利活動法人日本ディベート協会
特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟 岡山県教育委員会
国立大学法人岡山大学
(以上全て申請中)
- 期 日 2024年12月21日(土)～22日(日)
- 会 場 国立大学法人岡山大学 津島キャンパス
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
- 大会運営 全国高校生英語ディベート大会 in 岡山運営委員会
委員長 三村 直子 (岡山県立倉敷古城池高等学校 指導教諭)
- 審査委員会 一般社団法人全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA)
理事・審査委員長 矢野 善郎 (中央大学 教授)
- 参加条件
 - 学校教育法第1条に定める高等学校在学者または高等専門学校の3年まで、または中等教育学校の4年から6年に在学の生徒で本連盟の「メイク・フレンズ憲章」を厳守できる生徒。
 - 英語のネイティブスピーカーは不可。
 - 以下の海外生活経験者等の条件に該当する者はチームに2名以内：
 - 英語を第1言語とする国で12ヶ月以上滞在経験のある生徒 (就学前の滞在は不問)
 - 英語を第2言語とする国の出身である生徒 (就学前の滞在は不問)
 - 家庭で常用的に英語を使っている生徒

※試合ごとの出場制限は設けず、条件該当者も各試合最大2名とも出場可
- チーム構成 1校1チーム。選手登録は4名から6名まで。
原則として登録選手は、全員その出場校に在学する者でなくてはならない。各試合には4名が出場 (試合ごとにメンバーの入れ替えが可能)。

特例措置：合同チーム

同じ都道府県に所在する2つの学校が、ともに選手不足の場合、合同チームを組んで予選および全国大会に応募することを認める (ただし合同チームとして全国大会に応募する際には、予選出場時点のチーム構成を変更することはできない。また3校以上による合同チームは認められない)。

12. ジャッジ派遣義務

各参加校・合同チームは、必ず1校（合同チームの場合はチームに）1名、資格を満たしたジャッジの派遣が義務づけられる。

（派遣費用は各校負担。顧問の兼任は可能）

原則として派遣ジャッジはA)～D)のすべてを満たしている必要がある。

条件A) ディベート・ジャッジ経験——過去にHEnDA全国大会や県大会などにてジャッジの実績があり、HEnDAルールに基づいて試合の勝敗の判定を下す能力があり、かつ英語でのコメントも可能である。

条件B) HEnDAルールの把握——HEnDAルールブックを十分に熟読し、HEnDAルールで開催されるディベート方式に慣れ、反則行為や試合運営の詳細などについても十分に把握できている。

条件C) 論題についての理解——今年度HEnDA論題の定義を十分に理解しており、同じ論題で行われたディベートを県大会や練習会などでの観戦またはジャッジの経験がある。

条件D) 年齢・身分——原則として大学を卒業している社会人である。ただし大学生については、A)～C)の三条件を満たし、しかも大学でディベート経験のある3年生以上についてのみ、特別にジャッジ資格を認める。

※12月8日(日)10:00から行われるルール等説明会Onlineに必ず参加のこと。

13. 対戦方法

予選6試合の結果に基づき、上位4チームが決勝トーナメントへ進む。

予選各試合はジャッジ2名が審査。決勝トーナメントは、3名または5名が審査。

14. 論 題

Resolved: That the Japanese government should abolish all nuclear power plants in Japan.

日本政府は、原子力発電所を全て廃止すべきである。是か非か。

※論題の文言は変更の可能性あり。付記事項等、詳細については連盟HPを参照のこと。

15. 日 程

12/21(土)	8:30～ 受付	12/22(日)	8:00～ 集合・受付
	9:00～ ジャッジ点呼		8:30～ 予選第5試合
	9:30～ 開会式		10:20～ 予選第6試合
	10:30～ 予選第1試合開始 (昼食)		(昼食)
	12:30～ 予選第2試合開始		12:00～ 予選結果発表
	14:00～ 集合写真		12:30～ 準決勝
	14:45～ 予選第3試合開始		13:50～ 決勝
	17:00～ 予選第4試合開始		15:00～ 表彰式・閉会式
	18:00～ 交流会(引率者会議同時開催)		16:30 解散予定
	19:00 解散予定		

16. 競技規則

競技は「大会ルール」「ジャッジ基準」に基づいて行います。

「大会ルール」「ジャッジ基準」は連盟HPを参照。

17. 大会参加申し込み

連盟HP上の申し込みフォームに必要なデータを入力し、お申し込みください。

応募期間は10月1日(火)から11月13日(水)まで

18. 全国大会出場校選抜基準

出場校の最大総数は原則64とする。

原則として都道府県大会の上位校を選抜する。都道府県大会に参加した学校数に応じて、全国大会出場枠を割り振る(従って都道府県大会への出場が選抜される必要条件となる)。ただし、諸事情により都道府県大会を開けない県については、HEnDA主催で合同予選会を行い特例として参加を認める。また連盟の認定する広域大会の優勝校には出場資格を与える。

選抜基準の詳細は連盟HP参照。

19. 登録費 1 チーム 25,000 円
大会参加費 1 人 1,500 円 選手・顧問・派遣ジャッジ・選手以外の参加生徒
20. ホテル・弁当等の予約は必ず HEnDA 指定の JTB 岡山支店を通して申し込むこと
(遠方の参加校で、航空機等との宿泊パック等を利用する場合は、この限りではない)。
詳細は申し込みフォーム等で通知
21. 表彰 1 位に優勝旗、文部科学大臣賞 (申請中)、アメリカ合衆国大使館賞 (申請中)
1 位・2 位・3 位 (2 校) に賞状と副賞、予選 5 位～8 位に賞状
最優秀ディベーター 1 名に文部科学大臣賞 (申請中) と賞状と副賞
優秀ディベーター 5 名に賞状と副賞
コンストラクティブ/アタック/ディフェンス/サマリー・スピーカーの各最優秀者 1 名、優秀者 3 名に賞状
成績優秀校に対し、国際ディベート大会等への派遣支援を行う(参加費、旅費の一部を支給)
その他特別賞 参加者全員に参加証と記念品
22. 試合運営補助員(タイムキーパー、チェアパーソン等)公募
全国大会出場権を獲得できなかった学校や出場校の非登録メンバーから、試合運営補助員を公募する。
ただし教員引率があり、本連盟の「メイク・フレンズ憲章」を厳守できる高校に限る(試合運営補助員
の旅費、食事代等も各校負担)。応募が多い場合は各都道府県大会の上位校から決定する。なお公募に
関する締め切りは全国大会エントリーの締め切りに準ずる。

■問い合わせ・連絡先

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA)

理事・事務局長 小林 隆徳

henda-kobayashi@peach.plala.or.jp

お問い合わせ：連盟 HP (henda.global) まで

資料

■試合形式

発言者	役割と内容	時間
A1	① 肯定側立論 (Advantage は 2 点まで出せる)	4 分
	準備時間	1 分
N4→A1	② 否定側質疑 (否定側 N4 からの質問に、肯定側 A1 が答える)	2 分
N1	③ 否定側立論 (Disadvantage は 2 点まで出せる)	4 分
	準備時間	1 分
A4→N1	④ 肯定側質疑 (肯定側 A4 からの質問に、否定側 N1 が答える)	2 分
	準備時間	2 分
N2	⑤ 否定側アタック (肯定側の立論のみに対して)	3 分
A3→N2	⑥ 否定側アタックへの質問 (肯定側 A3 からの質問に否定側 N2 が答える)	2 分
A2	⑦ 肯定側アタック (否定側の立論のみに対して)	3 分
N3→A2	⑧ 肯定側アタックへの質問 (否定側 N3 からの質問に肯定側 A2 が答える)	2 分
	準備時間	2 分
A3	⑨ 肯定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3 分
N3	⑩ 否定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3 分
	準備時間	2 分
A4	⑪ 肯定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	3 分
N4	⑫ 否定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	3 分

計 42 分

■過去の大会の参加状況

大会	年度	参加都道府県	参加学校数	参加選手数	県予選参加校数	開催場所
プレ大会	2005	11 都県	26 校	160 名		岐阜大学 (岐阜県)
第 1 回	2006	17 都府県	38 校	208 名		岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 2 回	2007	22 都道府県	50 校	257 名		名古屋学院大学 (愛知県)
第 3 回	2008	24 都道府県	62 校	276 名		岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 4 回	2009	29 都道府県	64 校	295 名		東京国際大学 (埼玉県)
第 5 回	2010	29 都道府県	64 校	321 名		岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 6 回	2011	28 都道府県	64 校	357 名	181 校	金沢学院大学 (石川県)
第 7 回	2012	33 都道府県	64 校	345 名	226 校	千葉県立幕張総合高等学校 (千葉県)
第 8 回	2013	34 都道府県	64 校	369 名	242 校	松本大学 (長野県)
第 9 回	2014	38 都道府県	64 校	361 名	283 校	静岡文化芸術大学 (静岡県)
第 10 回	2015	36 都道府県	66 校 <small>10回記念特別</small>	380 名	280 校	岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 11 回	2016	37 都道県	64 校	367 名	309 校	常磐大学高等学校 (茨城県)
第 12 回	2017	37 都道県	64 校	369 名	312 校	東京国際大学 (埼玉県)
第 13 回	2018	40 都道府県	64 校	374 名	334 校	福井工業大学 (福井県)
第 14 回	2019	39 都道県	64 校	366 名	348 校	共愛学園前橋国際大学・中高 (群馬県)
第 15 回	2020	40 都道府県	64 校	370 名	282 校	Online 埼玉県
第 16 回	2021	43 都道府県	64 校	367 名	275 校	Online 埼玉県
第 17 回	2022	43 都道府県	64 校	366 名	266 校	Online 埼玉県
第 18 回	2023	40 都道府県	64 校	364 名	266 校	作新学院大学 (栃木県)

■現在までの HEnDA 方式都道府県大会等の開催回数 (2023 年 12 月現在、 は 2023 年度全国大会不出場)

北海道	1 4 回	東京	2 6 回	滋賀	1 6 回	香川	
青森		神奈川	1 5 回	京都	8 回	愛媛	1 2 回
岩手	1 1 回	新潟	1 1 回	大阪		高知	2 2 回
宮城	2 回	富山	1 2 回	兵庫	1 8 回	福岡	2 2 回
秋田		石川	1 8 回	奈良	1 回	佐賀	1 8 回
山形	9 回	福井	1 6 回	和歌山	1 2 回	長崎	1 8 回
福島	8 回	山梨	7 回	鳥取		大分	1 9 回
茨城	1 3 回	長野	3 1 回	島根	1 1 回	熊本	1 9 回
栃木	1 5 回	岐阜	2 2 回	岡山	1 2 回	宮崎	2 1 回
群馬	1 1 回	静岡	1 8 回	広島	1 5 回	鹿児島	2 6 回
埼玉	2 2 回	愛知	1 5 回	山口	9 回	沖縄	2 3 回
千葉	1 5 回	三重	9 回	徳島	5 回		

四国地区大会 14 回、九州地区大会 18 回

HEnDA 認定広域大会

Make Friends Cup 7 回、南関東ブロック大会 3 回、甲信越ブロック大会 7 回

東海ブロック大会 8 回、関西高校生英語ディベート大会 8 回

Make Friends Cup in Fukui 5 回、中国ブロック大会 2 回